

2022年度

# 保証人対象 大学との連絡会

学生取材レポート 10月1日 土曜日 取材協力：東京都市大学 新聞会

2022年度の「保証人対象 大学との連絡会」を、9月3日(土)より全国19カ所の会場で開催し、多くの保証人の方々にお越しいただきました。最終日である10月1日(土)に実施した世田谷キャンパス、横浜キャンパスでの連絡会の模様を、東京都市大学新聞会の協力のもと、保証人のご感想も交えてご紹介します。



世田谷キャンパス

## 2学部の移転が実現し、教育・研究のシナジー効果が進展

### 都市生活学部・人間科学部が世田谷キャンパスに合流

世田谷キャンパスでは、10時から情報工学部および知識工学部、都市生活学部、人間科学部、13時30分から理工学部および工学部、建築都市デザイン学部の説明会を行いました。

なお2022年度から、都市生活学部都市生活学科と人間科学部児童学科の2学部・学科が、等々力キャンパスより世田谷キャンパスに移転し、最新の設備を備える新7号館を主な拠点に、学修・研究活動を一層活発化しています。新7号館は学生のアクティビティの中心となる本学の新しいシンボルであり、2022年8月には、理工系教育・研究の重要拠点となる新10号棟1期工事も竣工しました。



世田谷キャンパスに移転をした人間科学部児童学科の説明会。写真は、教員紹介の様子。

### 理工系との連携強化で学びの幅が広がった児童学科

人間科学部児童学科の説明会では、はじめに学部長 早坂信哉教授が、「キャンパス移転により理工系との連携が強化され、一層幅広く人間科学について学ぶ機会を得ました。これは他の教育系にはない本学人間科学部の強みです。来年4月より、学科名を人間科学科とすることも決まっています」と説明しました。コロナ禍で影響を受けた幼稚園・保育所・施設実習については、「2年次から4年次までに計5回の施設・幼稚園・保育園実習を行っており、たとえコロナ禍であっても必ず実施します」と話しました。その後、キャリア担当教員 宮川哲弥准教授より、児童学科の就職率が100%で、公務員試験にも強いことなどが紹介されました。他に、東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)や児童学科独自の海外研修など、コロナ禍でいったん

停滞していた国際人養成教育も積極的に実施している点が強調されました。

### 建築学科は大学院に進学することのメリットも説明

13時30分から開始した建築都市デザイン学部建築学科の説明会では、コロナ禍における授業や課外活動などについて、可能な限り対面式で行う指針であることが紹介されました。学修面については、取得単位数が少ない学生に対して大学側から指導・勧告が行われ、保証人の方々も学生の出席状況を確認できるシステムがあることも説明されました。保証人が出欠状況や成績に注意を払い、家庭内でいろいろ話し合うことも、学生の将来を考える上で実りあることだと考えられます。大学院進学については、学科として強く推奨しており、学内からの進学者は入学金免除となるほか、特にデザイン系の学生は大学院修了により就職の幅が広がることが強調されました。就職状況に関しては、全国的な求人倍率は低下傾向であるものの、建築業界は概ね横ばいであり、都市大全体の就職内定率は97.7%に達し、就職に強いとの定評が変わらず維持されていると説明がありました。

今年度は、昨年度感染予防の観点から中止した学部全体の説明会を行い、その後学年別の懇談会、および希望者に対する個人面談を実施しました。



4月にオープンした世田谷キャンパス「新7号館」を熱心に見学する保証人の皆様。